

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	勤医協グループホームたんぽぽ1F2F	評価実施年月日	2008年6月15日
評価実施構成員氏名	市原 しほ(施設長) 金田純江(1階主任) 長谷美智子(2階主任)介護スタッフ全員		
記録者氏名	市原 しほ	記録年月日	2008年7月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	各ユニットで自分たちで理念を作りホームに内に掲示している	○	実践を重ねる中で理念の見直しも必要
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる。	出来る限り研修会に参加し日常的にも学習会を定期的開催している	○	今後とも出来る限り内外の研修会に職員を参加させてゆきたい
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる。	運営推進会議で具体的取り組みを紹介する事で、理念を理解していただける様努めている 家族へケアプランの説明を通じて理解していただいている	○	地域の懇談会などで認知症について知っていただく機会を持つ
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方々とのあいさつ、会話を日常的に心がけている 隣の市民菜園を借りそこで顔を合わせる地域の人と会話を交わしている	○	ホーム内で地域の方々といっしょに楽しめる行事等を行ってゆきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立されることなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会し回覧板の受け渡しや町内会の行事への参加を行っている	○	今年初めて町内会の花見に入居者と職員が参加し一緒に焼酎をすることが出来た。来年もぜひ参加したい
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会の公園清掃に参加している 市民菜園の周りの草取りに参加している	○	左記、今後も参加してゆきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今年職員全員で自己評価を行った	○	今後も職員全員で行ってゆきたい
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議はこちらの報告が主でなかなか意見が出ないのが現状であるがグループホームを理解していただくいい機会になっている	○	参加者が率直に意見が言えるような雰囲気作り
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上分からないことがあれば市の介護福祉課に相談しながら		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人はそれらを活用できるよう支援している。	現在は対象となる利用者は居ない職員の学習会は企画したが実現しなかった	○	権利擁護についての学習会を持つ
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	部会で学習会を行い、お互いに介護内容を点検、指摘しあい、入居者の人権や安全について話し合った 去年7月に身体拘束廃止委員会を立ち上げ玄関の施錠を廃止した	○	常に人権意識を磨くための研修や学習会、事例検討会に参加し自らの介護を振り返る機会を多く持ってゆきたい
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書の中に苦情処理の手順を掲載した この1年間は苦情は寄せられていない		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月1回通信を発行し、ホームでの様子や行事等を載せ御家族へ送っている。おこづかいの収支を毎月御家族へ送っている。 健康に異常が生じた場合はマニュアルに沿った対応をすると同時にご家族に報告している スタッフが受診に付きそつた場合は、結果を御家族に報告している		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書の中に苦情処理の手順を掲載した この1年間は苦情は寄せられていない	○	GH運営推進会議にご家族にも参加していただき率直なご意見を頂く
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回各ユニットごとに部会を開き意見を出してもら 職員の日常の気づきを大切に、できるかぎり改善につなげている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	夕方からねる前にかけて利用者の対応に追われる為、 11:30~19:45までの遅出勤務をつけている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は年に1~2回であり利用者に対する影響は少ない働きやすい職場作りのため、出来る限り職員の意見を取り入れる運営を心がけている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	この1年間内外の研修は合わせて20回受講しているまた20年6月より毎週木曜日ミニ学習会を開催しスキルアップを目指している	○	今後も出来る限り研修を受けさせてゆく毎週木曜日の学習会を定例化してゆく
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道グループホーム協会に入会し、研修会等に参加している。地域密着型事業者交流会に参加し情報交換を行っている	○	北海道グループホーム協会のオホーツク地域支部の活動に積極的に参加してゆきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	グループホームのとなりにある市民菜園を借り、入居者とともに畑仕事を行い、心身共にリフレッシュを目ざしている環境の良い広い休ケイ室で休ケイをゆっくりとれる様配りよしている面談等で職員の気持ちをよく聞くようにしている		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	全員が介護福祉士の資格をとる事を目ざし働きかけをしてゆく。又、現在介護福祉士の資格を持っている職員はケアマネジャーの資格をとるよう働きかける介護福祉士に対する手当を¥5000/月支給している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者本人から相談される時はじっくり話を聞き不安を取り除いてよう努力している		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の思いは最初の時点で充分聞くように努力しており、認知症を抱える家族の苦労に共感することで信頼関係を築いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応に努めている。	入居申し込みをされる方のほとんどが介護サービスを受けており担当ケアマネと連携をとり対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	個別のアセスメントを行い、生育歴からその人がおくってきた人生を出来る限り知ることによって、サービスの検討を行い、本人が納得できるようなやり方で提供する		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と供に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者といっしょに食事を作り、いっしょに食事を食べ、又、畑作りもいっしょに楽しみながら行っている。 職員は入居者さんを人生の先輩と思い敬愛し接している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月家族に送っている「通信」でホームでの様子を伝え、喜ばれている面会の時などに様子をお伝えし、信頼関係を築くように努力している 入居者の家族に会いたいと言う思いは、一緒に受診してもらったりレクに家族にも参加してもらおう機会を持つなどしている	○	本人、家族の意向により、家族との外出や外泊を進めてゆく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思いを家族に伝え、また家族の思いを本人に伝えながら、係を維持したり改善したりしている	○	レク活動などに御家族もいっしょに参加を促してゆく 本人、家族の意向により、家族との外出や外泊をすすめてゆく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅が近所の入居者さんは散歩がてら訪れたり、知人の方にも気軽によってもらえるような雰囲気作りに努めている	○	入居者さん1人1人のなじみの場所につれていってあげられたらいいと思います

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の輪の中に入れていない人には、ぬり絵やトランプ折り紙などに誘いなるべく孤立しないように心がけている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	認知症が改善され高齢者住宅に入居された方が今でも時々ホームを訪れ入居者と交流している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の様々な場面での観察やカンファレンスでのアセスメントで理解を深めている	○	カンファレンスの継続
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントを行う中で把握に努めている	○	カンファレンスの継続
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のアセスメントを行う中で把握に努めている	○	カンファレンスの継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式のアセスメントシートを使いカンファレンスを開きながら介護計画を作成している	○	カンファレンスの継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じてカンファレンスを開き計画の作成を行っている。状態の変化があった場合ケアプランの修正や見直しもしているが、スタッフの体制の都合が付き、すぐにカンファレンスが開けないこともあり、ミニカンファレンスで検討し徹底させることもある		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	入居者さんの1日の様子が分かる記録を心がけているが、ケアプランにそった記録という点ではまだ不十分である	○	職員がケアプランを充分はあくしそれに沿った記録が書けるよう お互いの点検や学習を強化する
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を生かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方からご家族がいらした場合は、ご家族といっしょの時間を過ごしたいという希望があれば、居室に泊まっていただく事も可能です 認知症対応型デイサービスが併設されており、気軽に行き来できるようになっており、合同でレクを行うこともある	○	ご家族や地域の人参加できる取り組みもしてゆきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の子供たちの太鼓や踊りの慰問やフラダンスサークルの方々の慰問などで楽しんでいただいたり、町内会の行事に参加したり、健康祭りなどの地域でのイベントにも参加できた。 年2回消防署にきていただき火災訓練を行った	○	今後もこのような取り組みを行ってゆきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	いまのところそのような意向や必要性はない		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	いまのところそのような意向や必要性はない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	病院の受診が必須な場合は本人の了解のもと、御家族にも状況を伝え受診していただく様になっている。かかりつけ医に対しては受診時必要な情報提供を行っている。御家族が受診に付きそえはの反応を、担当した職員から、御家族に対し医師の診療方針や、診療内容、処方内容等を伝えている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	所定の用紙で主治医と情報交換している		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり日常的に健康管理を行っている 訪問看護ステーションたんぽぽと医療連携しており必要時訪問や		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	この1年間3名の入居者が入院をされており、1名は約1ヶ月の入院の後なくなられ、他2名は、医師の予定の入院期間以内で退院しホームに戻っている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時、ご家族には終末期についての意向を伺うことになっておりませんが、いざその状況になった場合に状況に応じて決めてゆければいいと思っています	○	機会があればターミナルケアの学習を行う
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在は対象となる利用者はいない	○	他のGHでの事例が報告などから学んでゆきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働のダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、墨和えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時は担当ケアマネやご家族から今までの住居環境や生活習慣について情報をいただき、ダメージを防止する様努めている。例えばなじみの物の置き場所やベッドの位置、又、今まで床に布団の方はあえてベッドにしない様お話しをしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員どうしお互いに気になる言葉づかいなどを部会の中で出し合い検討している。重要事項説明書の中に「個人情報保護についての方針」を掲載し、実行している</p> <p>労働契約書の中に個人情報保護の義務化の文章を加える検討をしている</p>	○	労働契約の中に個人情報保護の義務化を加える
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の会話や生活の様子の中からその思いを知り、カンファレンスでアセスメントしより適切な支援を行っている</p>	○	カンファレンスの中で1人1人の思いを知り、働きかける事ができる様レベルアップをはかりたい
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するものではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1日のスケジュールは決めずその人の希望に合わせて行っている 集団レクの参加も無理強いせずに行っている</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>着衣の介助の必要な方も、色や形に気をつけて、着衣していただく。「似合うね」「ステキ」など、本人が自信を持てるような言葉が理容・美容は訪問理美容をほとんどの方が利用している</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片づけをしている。</p>	<p>調理のできる方には調理を、片づけのできる人は、食器を下げる茶わん洗い、フキンで拭く、タナへの収納など自分のできる事をしてもらう様にしている いなりずしやサンドウィッチ作りなど職員と一緒にしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒については希望者に量を決めて毎日のんでいただいている オヤツやのみ物も利用者の意向や好き嫌いを配慮して出している タバコは喫煙室で吸っていただいている お茶の時間には本人の希望を聞きながら、飲み物を提供している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンに合わせて声かけ、トイレ誘導を行っているが失禁していてもトイレに行くのを拒否する方もいて、対応に苦慮することもある。日中はオムツをはずす方向で考えたがトイレまで間にあわなかったり便秘と下痢の繰り返しでなかなかタイミングがつかぬ	○	日中はなるべくオムツをはずす努力をする
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて、入浴していただいている 介助の必要な方でもお風呂好きの方には毎日でも入っていただいている お風呂の嫌いな人も広く明るい浴槽に入ると「気持ちが良い」といってくれます		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間や起床時間は特に決めていない 昼寝は自由にいただいているが、その事でリズムの乱れはない。居宅の温度、湿度管理を個々に合わせて行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	体の元気な女性入居者には調理、洗い物 草取り 畑の収穫 花水やりなど、男性入居者は男性スタッフと一緒に大工仕事や畑おと役割を持ち楽しみながらおこなっている		
60	○お金や所持や使うことの支援 職員は、本人はお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出かけた時にはなるべく自分で支払いするように援助している 本人の意思を尊重した買い物ができるよう援助している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	雨が降っていない限り1日1回は入居者個々の体調に合わせて、体を調整して散歩や外出をするようにしている	○	冬期間も外出でき足が弱らないような働きかけ
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段いけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援をしている。	月2回はドライブ、お花見など入居者の希望を取り入れながら外出レクを行っている 利用者によっては面会に見えたご家族と一緒にお寿司を食べに行ったりパチンコに行ってきたりする方もいて、そのような時は帰宅後は大変穏やかに過ごされています		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望すればいつでも電話や手紙のやり取りは援助するつもりでは		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者に対しては、感謝の気持ちで接し、あいさど、言葉づかいなどにも気づかいをしている。来ていただいた方には「ありがとうございました」と声をかけるようにしている		
(4) 安心して安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	H19年7月に身体拘束廃止委員会を立ち上げ玄関の施錠廃止に くみ、同年9月には夜間を除き開錠にこぎつけた	○	自らの介護を常に振り返り、身体拘束に当たることがないかを点検してゆく 繰り返し身体拘束についての学習を行い、職員が高い人権意識を身につけてゆく 身体拘束廃止委員会を定期的開催する
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	H19年7月に身体拘束廃止委員会を立ち上げ、同年9月に夜間を除き玄関の施錠を廃止することが出来た	○	今後も入居者とのコミュニケーションを大切にすることによって「思い」を理解し「鍵」で拘束しないケアを継続してゆきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは利用者がどこにいて、何をしているか、さりげなく観察しながら把握している。居室で1人でいたときには、声をかけたり又そっとしておくなど配りよしている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物はカギのかかるタナにしまうようにしている シャンプー、リンス、液体石けんなどを顔にぬってしまう方については、スタッフが気づかっている。それ以外は浴室の棚に置き管理している		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の恐れのある入居者さんはスタッフから目がとどきやすい位置の居室にしている。またより転倒の危険のある方のベッド下にサーを置き未然に転倒を予防している 喫煙室を設けタバコライターの管理をしている 又玄関にセンサーを設置している 洗剤や漂白剤はかぎのかかる棚に保管している 年に2回火災訓練を行っている		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている。	誤嚥時の対応の仕方を部会で学習をした	○	8月と9月に消防署の救命講習を未受講の職員を受講させる 症状別の対応を学習会で勉強してゆく 全職員が3年に1度は救命講習をうける
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	入職時に災害マニュアルにもとずき研修を行っている 年に2回は避難訓練を行っている		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランの説明のなかで具体的に説明させていただいており、事故防止のための具体策を提案させていただいている スタッフ間では、安心、安全、なじみの暮らしの継続という視点でケアカンファレンスでケアについて話し合われている	○	この間転倒事故が続いており、危険防止と筋力低下予防の機能訓練や戸外散歩を積極的に行ってゆきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調の変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結びつけている。	朝夕の申し送り時気になることを申し送り、必要に応じて健康管理者への報告や24時間医療連携体制の活用で、大事に至らないようにしている 週に1回は訪問看護ステーションの定期訪問により、バイタルサインのチェック、状況の観察等行っている	○	学習会で病気や健康管理についても学んでゆきたい
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	用法や用量はダブルチェックをし、間違えない様に努めている。服薬時は本人の前で、日付、朝昼夕、名前を声を出して確認している 薬を受け取る時に説明書を読むようにしている	○	ケアカンファレンスの中で、内服しているくすりの効用や副作用についても学習してゆきたい
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床時に冷たいのみ物を飲んでいただいたり水分補給と食物繊維を多くとる事に心がけている 慢性便秘症の利用者に対しては、医師の指示のもと薬剤をのんでもらっている方もいる	○	薬剤に頼る傾向にあり、食事の工夫や排便習慣をつけるためのトイレ誘導を日常的に行っている
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後入居者全員に歯磨き、口腔ケアを促がしている 義歯をなかなかはずしたがらない入居者に対しても忍耐強く働きかけ一定の成果も得ている		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1部の利用者を除き、栄養、水分摂取は全体として満たされている。摂取量を記録し記載し、気をつけている 摂取の少ない利用者に対しては、メニューを変えたり食べやすい形態にしたりと工夫して食べていただいている	○	水分のとりたがらない入居者さんに対してはゼリーにしたり好きな飲み物や果物で水分補給を試みる
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルにもとずいて行っている ノロウイルスについての学習会を行っている 食中毒の学習会を行っている	○	マニュアルの徹底

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	炊事前の手洗いや、フキンまな板の消毒を行っている。 食材はこまめに業者に発注、冷蔵庫の中には最小限の食材しか置かないなど努めている 夏場は生ものは献立に入れない	○	マニュアルの作成と学習をくり返し行う
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中は開錠されており、誰でも自由に出入りできるようになっている 玄関のまえには鉢植えがいっぱい置いてあり、コーナーには植木や花も植えられている		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	和みの場になるように季節の花を生けたり壁に写真を貼ったり、品を展示し明るい雰囲気を出している		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに楽しんで過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下、ベランダ前に2人掛け用のソファを3箇所におき自由に座れるようにしている 時には仲良しの2人で会話を楽しんだり、1人で外を眺めたりとそれぞれ活用している 又喫煙室があり1人でゆっくりタバコが吸える		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に御家族と相談、なじみの物が、すぐ目に見えるところにある様に配りよしている なるべく、自分の部屋の配置と同じ用にベッドなどを置き、安心して過ごせる様になっている 入居者が自分の部屋を自分だけの安心できる場所として過ごせるようプライバシーに配慮した対応をしている		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が生じないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計を設置し、それに基づき換気や暖房を調節している 冬季以外は時々窓を開け換気している 洗濯物を室内に干すことにより、冬は室内の湿度を保っている	○	使用済みのコーヒーの粉を危険のないところに置き脱臭剤として利用している
(2) 本人の力の発揮と安全性を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内はバリアフリーになっている。歩くところは床に物を置かない 隣のデイにも簡単に行き来が出来る 洗面台は広く、車イスのままでも使用できる トイレは1ユニットに4ヶ所あり、中も広く、ゆったり使える様になっている 各所に手すりがついていて、安全に移動が可能である		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの戸を全部黄色にそろえ、居室との違いを出し、まちがわれない様工夫した。トイレの表示を「便所」とした 居室の照明灯のスイッチをひも式にし、誰でも迷わずにできる様にした	○	1人1人のできる事、できない事をカンファレンスの中で話し合い、できる事をのばしてゆく様に働きかける
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関の前にプランターを置き花を生けている 敷地内に花ダンがあり、花と木が植えられている 建物の前には広いスペースがあり、入居者が日向ぼっこをしたりできる ようベンチが置かれている 夏には外で焼肉や食事をして楽しめる		来年度に建物の西側の空地に植樹をしたい。 (居室の窓から西日がましくなるのを防止すると、木による「いやし」の効果も期待して?)

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まったり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【 特に力を入れている点・アピールしたい点 】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

認知症に対する科学的理解

認知症に関する研修を積極的に受ける

認知症介護の技術の習得

高い人権意識を職員全員が身につける

働きやすい職場作り

利用者と職員が一緒になって温かいホームを作ること